

## 令和5年度第2回（第57回）栗東歴史民俗博物館協議会の概要

開催日時 令和6年1月16日（火曜日）10時00分から11時40分まで

開催場所 栗東歴史民俗博物館 会議室

出席者

協議会委員 大西 洋子（会長）、奥野 初恵（副会長）、  
宇野 日出生、大橋 信弥、川那部 隆徳、國賀 由美子、鈴木 元彦、  
高宮 弘、西尾 悦子、林 優里 の各委員（10名）

事務局 福田 茂幸（スポーツ・文化振興課 課長 兼 歴史民俗博物館 館長）  
大西 稔子（歴史民俗博物館 副館長 ・ 学芸員）  
中川 敦之（歴史民俗博物館 係長 ・ 学芸員）  
栗本 昌芙実（歴史民俗博物館 主査）

欠席者 なし

傍聴者 0名

### 概要

1. 開会
2. 協議事項
  - ①令和5年度下半期の博物館事業について
  - ②令和6年度の博物館事業について
  - ③その他
3. 連絡事項
4. 閉会

## 議事

### 1. 開 会

開会の挨拶（福田 茂幸 館長）

開会の挨拶（大西 洋子 会長）

### 2. 協議事項

#### ①令和5年度下半期の博物館事業について

資料に沿って、事務局 より説明。

(A 委 員) 今年度の入館者数について12月時点で5,393人とある。一方で、昨年度の入館者数は年間10,748人と示されており、今年度の入館者数が大幅に減少しているように見受けられる。特に、小・中学生の入館者が大幅に減っているようだが、理由等、把握していれば教えて欲しい。

(事 務 局) 例年、1月の「栗東市青少年美術展覧会」・2月の「滋賀県教育美術展」に合計3～4,000人の来場者がある他、1月下旬に博物館教室「昔のくらし」の受講が集中している。入館者数には、これらの来場者・受講者も含めることから、例年、1月以降の入館者数が大幅に増える傾向にある。今年度の年間入館者数についても、最終的には昨年度と同程度になると考えている。

(副 会 長) 博物館教室「昔のくらし」は、小学3年生が対象か。

(事 務 局) そのとおりである。

#### ②令和6年度の博物館事業について

資料に沿って、事務局 より説明。

(B 委 員) 重点目標の「市民とともに楽しみ広く活動する博物館を目指して」は大切なフレーズだと思う。歴史民俗博物館では、既に多くの事業に取り組んでいる。いかに市民の来館につなげるかということを考えて欲しい。例えば、スポーツ・文化振興課等と協力して、歴史民俗博物館横の芝生広場でイベントを開催するという事は考えられないか。また、各展覧会の会期中に開催している展示解説会にあわせて、普段は展示していない資料を展示し解説する等すれば、集客につながると思う。

(会 長) コロナ禍で中断していた博物館講座「かまどめしを炊こう！」を再開する等、地域の方と楽しめる事業に取り組んでいると感じる。より一層、市民と楽しめる、子どもも大人も楽しめる事業を展開して欲しい。

栗東音楽振興会（RISS）では、スポーツ・文化振興課や歴史民俗博物館の協力を得て、「RISS ミュージアムロビーコンサート」を開催してきた。文化財と音楽の融合という意味合いもあり、コンサートをきっかけに初めて歴史民俗博物館を訪れる方も多し。ちょっとしたきっかけが、歴史民俗博

博物館への集客にもつながると思う。コンサートの時もそうだが、休憩できる喫茶スペース等があれば効果的ではないかと感じている。

- (C 委員) 私は 40 年間、博物館施設で勤務してきた。博物館には文化財の収蔵・展示施設としての特性があり、果たすべき役割があること忘れてはならない。栗東市には栗東芸術文化会館さきらがあり、文化・芸術の振興は、さきらが担うべきではないか。

歴史民俗博物館では、通史展示「栗東の歴史と民俗」も含め、ハイレベルな展覧会を開催しているが、図録やリーフレットが刊行されない状況が続いている。これらには、展覧会の内容を記録する意味もあるので、刊行できないなら簡易な抄録を手刷りする等の工夫をしてはどうか。学芸員は研究者であり、歴史民俗博物館でも新たな学芸員の採用や人材の育成が必要な状況にあるが、展覧会の内容についても記録し蓄積し、これから先の学芸員に承継する必要がある。

- (館長) 栗東の文化・芸術の殿堂として 25 年前に開館したさきらは、当初は鑑賞事業に積極的に取り組んでいた。その後、市の財政状況の変化等により、市民の発表の場にシフトしてきた流れがある。指定管理者制度を導入する中、鑑賞事業と市民の発表の場の双方にバランスよく取り組むことに腐心しているが、施設の改修も含め、文化・芸術の殿堂として位置付け直すことが必要と感じている。

- (D 委員) C 委員のご意見と同感である。ヒト（学芸員）・モノ（文化財）・ハコ（施設）が博物館の根幹となる。一方で、来館者を迎える施設としての意識も持たなければならない。施設や設備の老朽化が進む中、会議室の壁紙まで貼り換える余裕はないのかも知れないが、あまりにも汚れが目立つと感じる。

重点目標の 3 段落目にも、「施設や設備の老朽化への対応が喫緊の課題」「施設や設備の年次的な更新に努めるとともに、大規模改修について具体的に計画」とあるが、どのような取り組みをしているのか伺いたい。

- (事務局) 大規模改修計画の具体化はできていない。財政当局に、歴史民俗博物館としての考え方は示しており、それに即して実施できるよう、折衝を続けていきたい。

県内には、大規模改修に取り組んでいる博物館施設もある。補助金等の有無も含め、どのように進めたのかを担当者レベルで問い合わせるところから始めていく。

- (D 委員) 承知されていると思うが、不具合が生じてから修繕するという性質のものではないことを十分認識し、財政当局の理解が得られるよう進めて欲しい。

- (事務局) 令和 6 年度には、高圧受電設備（キュービクル）の更新に着手したい。単

年で終わるものではなく、年次的に取り組んでいくことになる。

- (A 委員) 歴史民俗博物館は入館料無料であり、市民サービスという観点では良いのかも知れないが、収益を出す仕組みも考えてはどうか。民間事業者としては、歴史民俗博物館に協力したいと思っても、利益が得られないことには躊躇してしまう。

私自身、本協議会の委員を引き受けてから、観光地の博物館や資料館を見学する機会が増えた。観光客の来館につなげるという観点から、B委員のご意見にもあったスポーツ・文化振興課もそうだが、商工観光労政課や観光協会との協力を深めてはどうか。

- (E 委員) 市民学芸員の会では、平成20年の設立当初からの会員の高齢化等に伴い、会員の入れ替わりが進む中、どういった活動ができるか模索している。博物館教室「昔の暮らし」等の事業への協力や、ボランティア観光ガイド等の団体来館にあわせた通史展示「栗東の歴史と民俗」の解説等、市民学芸員としてできることがあれば教えて欲しい。

以前本協議会でも話題となった収蔵庫等のバックヤードの見学については個人的にも興味があり、実現すれば多くの方が関心を持つと思う。また、職員の負担軽減という観点から、栗東市立図書館や栗東自然観察の森のように、週2日（月曜日・火曜日）の休館日を設けてはどうか。

- (副館長) B委員、会長からご意見をいただいた、利用者層の拡大・歴史民俗博物館の活性化につながる取り組みの重要性は理解している。A委員からご意見をいただいたように、官民がWin-Winの関係になれるような取り組みを考えていきたいので、改めて相談させていただきたい。

C委員からご指摘をいただいた博物館施設の特性や博物館が果たすべき役割については、歴史民俗博物館が様々な取り組みを進めていく中でも大切にしていきたい。また、D委員からは施設や設備の大規模改修についてご意見をいただいたが、新たな学芸員の配置と併せて要求・折衝していきたいと考えている。

E委員が代表を務めて下さっている市民学芸員の会との交流・協力関係は今後も続けていく。バックヤードの見学については、まず協議会委員の皆様ということお話しだったかと思うので、次年度以降、調整させて欲しい。また、博物館教室「昔の暮らし」の受け入れ等、学校教育との連携を考えた場合、平日の開館日数を確保する必要があることから、週2日（月曜日・火曜日）の休館日を設けることはない。

- (F 委員) 展覧会を開催するには、予算と人員が必要である。令和6年度の展覧会として、発掘調査成果展を掲げているが、考古資料担当の学芸員が不在の現状では、スポーツ・文化振興課（文化財保護係）やスポーツ協会（出土文化財センター）の協力を仰ぐことになると思うが、将来的な学芸員数の増

員等、プラス方向に展開できるのではないかと感じる。市外から資料を借用することも含めて、関係する機関等と協力しながら進めて欲しい。歴史民俗博物館では開館当初から、精力的に展覧会活動に取り組んできたが、それらの取り組みも過去の実績として本協議会で示す他、来館者にも見える形でPRしてはどうか。

(事務局) 発掘調査成果展については、既にスポーツ・文化振興課（文化財保護係）の担当者と協議しており、スポーツ協会（出土文化財センター）の協力を得て開催していくこととなる。県が市内で行った発掘調査や、近隣市での発掘調査の成果も織り交ぜた内容にしたいという思いは持っており、関係する機関等との協議も進めたい。

過去の展覧会活動については、現在、事務補助員により、年度ごとにチラシやパンフレットをファイリングしている。本協議会でもお示しする他、来館者が閲覧できるような方法を考えたい。

(G 委員) 歴史民俗博物館に市民が集まり、良い場所だという印象を持つようになれば良いと思っている。大人も子どもも集まれるような場所を作っていって欲しい。市民学芸員の会もそうだが、本協議会でも、事業の補助等できることをしていきたい。

また、予算や人員のことで、必要性を訴えていくのも本協議会の役割ではないか。

(H 委員) 職場の整理をしていたら、過去の『広報りっとう』に、古い写真を紹介するコーナーがあるのを見つけた。古い写真から歴史を紐解くのは興味・関心を持ってもらいやすく、PR効果もあると思うが、現在は『広報りっとう』にそのようなコーナーを持ってはいないのか。

(事務局) おっしゃっているのは、「ワンショットヒストリー」というコーナーだと思う。現在は、「りっとう再発見」というコーナーに、年間数回、記事を掲載している。

古い写真は、多くの方が興味を持たれるコンテンツであり、令和6年度に開催する町制施行70周年記念展の中でも紹介していきたい。また、学校等で古い写真をお持ちの場合には、拝見できればとも思う。

(副館長) 博物館教室「昔の暮らし」について、年度初めの校長会で紹介させていただく等の工夫をし、今年度は市立校9校のうち7校が受講して下さったが、歴史民俗博物館としては、全市立校に受講してもらいたいという思いがある。来年度の受講を呼び掛ける中で、ご協力いただければありがたい。

(H 委員) 受講していない2校のうち1校は私の勤務校であり、申し訳なく思っている。各学年の事業や校外学習を計画し、他の見学先との調整や大型バス等を手配する中、日程の都合がつかない場合がある。博物館教室「昔の暮らし」の受講以外の部分でも、歴史民俗博物館を活用していただけるようにした

い。

- (D 委 員) 町制施行 70 周年記念展について、どのような内容を考えているのか。
- (事 務 局) 令和 3 年 (2021) に栗東市制施行 20 周年記念展を開催したところではあるが、コロナ禍であったこと、また、第 2 展示室での雨漏れにより展示スペースの縮小を余儀なくされたこともあって、十分な内容にならなかったという思いがある。市制施行 25 周年にあたる令和 8 年 (2026) は、『近江栗太郡志』が編まれて 100 年という年でもある。栗東や旧栗太郡にとって節目の年に向けた準備の一環として、町制施行 70 周年記念展を開催し、まずは栗東のまちの成り立ちを改めて紹介したい。
- (D 委 員) E 委員からご意見のあったバックヤードの見学について、特に収蔵庫については、資料の安全や防犯の観点から慎重に検討していただきたい。
- (C 委 員) 個人情報の観点から公開できない資料もある。また、梱包した状態で収蔵しているものもあり、けして見映えのするものでもない。
- (E 委 員) 様々な事情があることは承知している。社会教育・生涯学習の観点から、高齢者層の興味・関心に合致しそうな内容として意見を述べたものである。
- (B 委 員) バックヤードについては、協議会委員として見ておきたいので、次回以降に調整をお願いしたい。

前回までに何度か、歴史民俗博物館に看板がないことを指摘し、この建物が博物館であることを PR する意味でも、看板は必要ではないかと意見を述べてきたが、その後どうなっているか。市の予算編成の流れとあわせて教えて欲しい。

- (館 長) 予算編成については、まず原課で (案) を作成し、財政課に提出する。原課が持っている優先順位や事業を実施する理由等についてヒアリングが行われ、折衝を経て、財政課が判断・査定していくという流れがある。
- (副 館 長) 看板については、過年度に予算要求を行ってきたが、予算化されていない。

### ③その他

栗東歴史民俗博物館管理運営規則の改正を行ったことについて、「栗東歴史民俗博物館管理運営規則新旧対照表」により、副館長 より説明。

- (副 館 長) 令和 5 年 8 月に台風が接近した際に、来館者の安全確保の観点から臨時休館にすることを検討したが、臨時休館に関する規定が明確ではなく、実施には至らなかった。このことから、臨時休館に関する規定を明示するもの。また、今後、大規模改修等を具体化していく中で必要となる長期休館にも対応できる内容としている。

本協議会にお示しするのと前後してしまっただが、令和 5 年 12 月の市教育委員会定例会でお認めいただき、令和 6 年 1 月から施行されている。

3. 連絡事項 特になし

4. 閉 会

閉会の挨拶（奥野 初恵 副会長）